

# 農園便り 11

月号(118号)

文責 筒口 典康

中学1年の時の同級生、「二瓶満吉」氏、研究所の代表に。「ソマチット農法」を教えていただく。千葉県東風山の「竹」の「かぐや姫」を退き、新たな事業を始められたようである。この歳(84才)にして、頑張っている。

数十億年前の泥岩。北海道檜山郡地方で産出するそうであるが、写真を見て下さい。注文は、ジーエスボロン研究所 (tel 0479-77-4187) 粉末がお薦め。



ビニール袋の中は粉末 鉱石

振りかけの瓶に入れて使う

「ソマチット農法」の説明書

ゴマ塩の小ビンに入れて、葉物野菜の根の周囲に軽く振る、と…。2週経つと。キャベツ、ブリッコリーの葉が銀色に輝く。白菜の外葉が張り出し、結球が始まる。大根が急激に育ちだす。「元気野菜」の出現におどろく。ウリハムシに似た昆虫も退散。青虫も見かけない。ソマチット様々だ。

コンピューターで検索すると、ソマチットの泥岩は、貝類の大繁殖期の数十億年前の「泥」の変成岩のようである。この岩を砕いて礫状にしたもので濾した水は、飲料用に使うと健康増進になるという。

パウダー状の粉末を地表に軽く振るだけ。これは、微量元素の粉末だ。細胞体の中にあるDNAレベルの微小な成分であると言う。「話半分」と言うことで(失礼…)使ってみる。…と。有効!。アミノ酸、酵素、ビタミン、…核酸等の成分の合成が促進されているように考える。コンピューターの検索レベルでは、その辺りの事しか分からない。とにかくすごい。ソマチットは、凄い。

以前、阿武隈山界から流れる河川水が海溝に溜まり「深層海水」として、また、四国沖の海溝の停留水も「深層海水」として売られていた。「オリンピック店」関町店で、購入して使ってみた。ソマチットの成分と同じものであろう。その時は、それ程よく効いているとは思わなかった。

**クロレタリア(えびすぐさ)** 北アメリカ南部の熱帯植物で、東南アジア、中国から伝わる。寒さに弱く雑草化することは無い。マメ科植物で窒素固定菌と共生する。富栄養植物で、緑肥に使うと良い。根は深く、分泌する液で、ネコブコンチュウを殺す。(根菜類に良い) 緑肥に使うとミミズが繁殖してくる。ミミズの糞には放線菌がいるので、厄介なフザリウム、ペシウムなどの悪玉菌をやっつける。根が深いので、いわゆる根で耕す「根耕」に使え

る。「根耕」と言えばパパイアの根もすごい。クロレタリアの種を炒って、コーヒーのようにして飲むようである。炒った種を煎じて飲む。

ナメクジが居なくなる。アリも来なくなる。長年「緑肥マルチ」として使っている。おかげさまで、ビニールマルチは使わない。一般の雑草に負けない、強い植物。クロレタリア全体に、昆虫たちが嫌うであろう臭いがあります。やや悪臭。

**キクイモ** 去年耕作されていた坂ノ上さんが残したもので、3メートルの高さに伸びまして、菊状の花を咲かせております。区の除草作業員の方に刈り取らないように頼みました。農園全体の東南の角です。除草剤を撒かれた土を置いて、水で「洗浄中」にもかかわらず、元気一杯。キクイモは、枯れない。強健な植物です。



クロレタリア 長い莢に種が出来る マメ科

キクイモ 3mにも育つ丈夫な宿根草

そうそう、除草剤には、まいりました。原液に近い液剤、クサノンE X顆粒。大量に散布されて、大被害。薬を撒かれた大鉢、コンテナには今(10/23)だに草が生えてきません。『お父さん、先生の所、まだ撒いていないよ』と。信じられませんよね。3度植え直した夏の3大果菜、全滅。サトイモ、ショウガ、ミョウガ、壊滅。ネギ、ニラ、食用百合、枯死。エンドウ豆、インゲン豆、壊滅。大根、小松菜、ツルナ、黄変白化して枯れてしまった。楽しみにしていた西瓜もトウモロコシも。ジャガイモ、アピオス、姫蓮根、サツマイモ、も……。野菜たちの苦しみ様が、可哀そう。

食用菊を植えたコンテナ、品種名を書いた札だけがあるだけ。いまだに草の芽は無い。寂しい。キクイモは負けない。

アメリカの先住民、インディアン達は、自然と共に生活して、キク芋、アピオス芋、カーンザ(イネ科の雑穀)、キャッサバ、トウモロコシ…の収穫。バイソン、ヘラジカ、トナカイ、クマ、ウサギを追って狩猟。自由に居住していた。狩猟・採取時期を知り抜いていた。インディアンは、広大な大陸で自由に生活していた。18世紀前後までそのような狩猟採取で生活をする種族が暮らしていた。

キクイモは、「キク科」、「ヒマワリ属」。カリウム(K)やイヌリンを多く含

み、植物繊維が豊かで、血圧降下・血液循環を促進するという。糖尿病に効果ありと言う。まだ食べたことは無いのでありますが、ポテトチップのようにして食べるとおいしいようです。小鍋で焼いたり、漬物にしたり、・・・美味しそうです。戦中戦後の食糧難の時代に、栽培が広まった。東北・長野の高血圧患者の多かった地域で広まった。キクイモの根は深く伸びる。1850～1860年頃に導入された。当初は飼料用として栽培された。

根で耕す⇒「根耕」に使える。私は畑を深耕しない。根に耕してもらう。キクイモの根元で切る。そして、深く掘った細溝に茎葉を入れる。「糠」を振る。「醗酵菌」「土」を撒く。1ヵ月もすれば、「土」になっている。これで、「畑」からは、ゴミは出ない。捨てるものは無い。

うまいくくと、酒蔵のような醗酵の香りが漂う。「腐敗臭」は全く出ないのであります。「醗酵善玉菌」のおかげです。「麹菌」「納豆菌」「乳酸菌」「酵母菌」・・・、ごく身近に居る「菌」たちに活躍してもらいます。

### 元気な野菜たち      先ずは、写真を見て下さい。



すっかり元気な畑になりました。白菜、ブロッコリー。水槽の中には水棲植物が。サトイモとショウガ。とても相性が良い。サトウキビも復活しました。嬉しい。上の段の写真の中央の南畝の野菜は、ツルナ。群生する。

一番手前のサトイモを片付けて、春菊とレンゲを蒔きました。草マルチをどかします。地表から3cmぐらいの所が、ミミズの糞でコロコロ。玉玉。平らにして、種子を蒔く⇒撒く。すると、種が玉の隙間に潜る。転げ落ちる。覆土を少し振ります。小板で押さえて水を撒く。いたって粗放的な方法です。散水。必要に応じて新聞紙1枚敷く＝置く。その上からも散水。花屋さん(芝勝商会)にいただいた策目のトレーを置く。朝・夕散水。3日目には根が覗く。沢山芽が出てきますから、本葉3～4枚出そろった時に別畝に移植します。植え痛みで、収穫期がずれるので、都合が良い。乱暴な考えた方であるが、調子が良い。

畑全体を少々盛り土してありますので、一段高いので、作業姿勢が楽です。いずれにしても、オクオク・ラクラク⇒置く々・楽々、なのであります。中央通路を掘り下げているので盛り土状態になります。



中央の作業路 低くして厚板を置く 掘った土は幅広畝に盛り土する 使用境堰板、盛り土

レンゲソウは、春の刈草に使います。カラスノエンドウも使います。ビニールマルチは全くしない。草を刈り取って置くだけで良いのです。「置く置く草マルチ」と言うことになります。それに、マルチ(草)の片付けがラク。楽・楽なのであります。草は、置く置くでしたね。

畑に空所が出たところには、大根を蒔きましょう。太陽の光を野菜たちがキャッチ。雑草は全く生えてきません。除草の重労働は、全く必要ありません。農園の耕作者で、「草取り」に苦勞なさっている方がおられますが、考えた方がよかろうに…と、思う。

T

10/10

東京百目柿 色づく

